



生駒市立鹿ノ台中学校

第1号

## 校長室だより

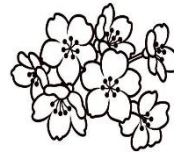
令和4年4月13日

始業式から一週間が、そして入学式から5日が過ぎました。多くの方が新しい環境に少しずつ慣れつつある頃だと思えます。特に88名の1年生の皆さんは、まだわからないことや知らないことがたくさんありますが、先生方や先輩方から教えてもらいながら、一つずつ覚えていってください。



### 新年度のスタートにあたって

「入学式」の式辞と「始業式」の式辞の中で話した、目標にしてほしいことを改めて紹介します。



#### 【入学式式辞より】

まず、一つ目は、「志を持ち、夢や希望に向かって、粘り強く挑戦していく」ということです。将来、多くの職業が AI に置き換わるという予測の中で、AI に置き換えることのできない「人間としての価値」を求め、「社会の中で、いかに生きるか」を自分自身に問いかけ、「自分はこう生きたい」「こんな人間になりたい」「人の役に立つことをしたい」という決意を持ち、生きていくことです。中学生時代は、知性や感性が豊かになり、夢が現実近づいていく貴重な時期です。夢を持てば目標ができ、目標ができれば計画が立ち、計画が立てば実践ができます。

二つ目は、「人と共に生きる力を身につける」ということです。皆さんがこれから中学校で学び、身につけていく様々な学力や能力は、人と共に生きる力

があって、はじめて社会で生かすことができます。そのためには、相手の思いを理解したり、自分の思いを理解してもらったりすることが何より大切です。相手を受け入れようという姿勢、相手を理解しようという姿勢があれば、自分の思いも、相手に伝わっていきます。「相手を認め、思いやる心、真心」を持って、「感謝の気持ちを忘れずに、人に優しくする態度」を大切に、人のために尽くして物事に当たれば、必ず思いは伝わり、心を動かすことができるのです。

#### 【始業式式辞より】

2年生は立場が変わり、先輩として新1年生との関係を築き、学校の中心的な役割を担うこととなります。3年生は、最上級生として、多くの後輩たちをリードしながら、自分たちの進路を切り拓く重要な時期を迎えることとなります。コロナ感染症の感染拡大で休校期間が始まった2年前の春以来、学校生活にもいろいろな制約がある中で、皆さんが「できないからあきらめる」のではなく「できることは何か」を考え、精一杯、取り組む姿を見続けてきました。そんな皆さんのことです。これからの1年間、目標をいっそう高く掲げながら、様々なことに挑戦してくれることを期待しています。感染拡大は予断を許さず、マスク生活は続くかもしれませんが、マスクの下は、輝く笑顔で、「元気いっぱい、挨拶いっぱいの中学校生活」を送ってほしいと願っています。

#### ◇新しくお迎えした先生方の紹介◇

教頭	海老 毅 先生	国語	石田 浩章 先生
英語	牧野 智春 先生	美術	竹下 剛 先生



#### 保護者の皆さまへ

校長の依田麻衣子です。鹿ノ台小学校で2年間、鹿ノ台中学校で1年間、教頭として勤務しました。

現在、感染拡大の終息も見通せず、保護者の皆さまにはご心配をおかけしておりますが、生徒とともに教職員一丸となって、教育活動に取り組む所存です。どうか、ご理解とご支援のほど、お願いいたします。